

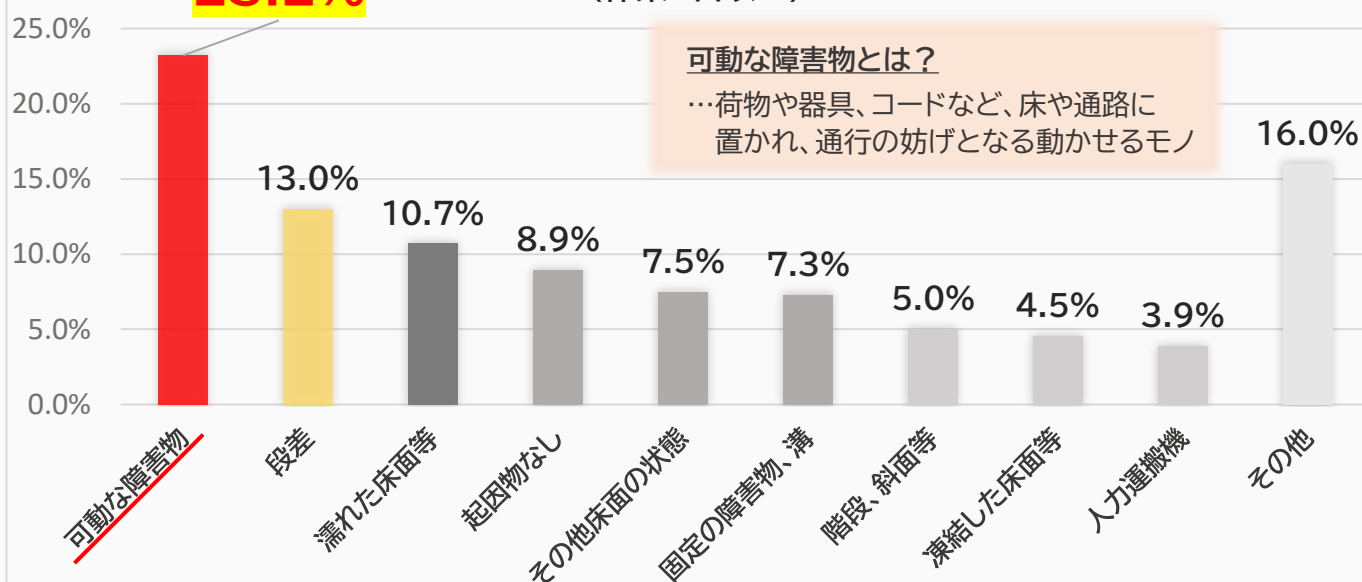
そのちょい置きが、 長期休業のきっかけに。

その転倒災害、原因は“足元のモノ”かもしれません。



岡山県内では、令和7年中に約600件の転倒労働災害が発生しました。
その約4分の1は、通路上の荷物やコードなどの「可動な障害物」によるものです。
転倒労働災害を防ぐため、身近な「ちょい置き」を見直しましょう。

R7年 転倒災害の起因物別の割合
(休業4日以上)



※令和7年発生 of 休業4日以上 of 転倒労働災害から集計

(裏面で「ちょい置き」の具体例をチェック！)



ちょい置きをやめて、
安全な通路をつくりましょう。

- ☒ 通路にモノを置かない！
- ☒ 使ったら元の場所に戻す！

- ☒ 足元をよく見て、あわてず行動！

職場の典型的な“可動な障害物”について

パレット

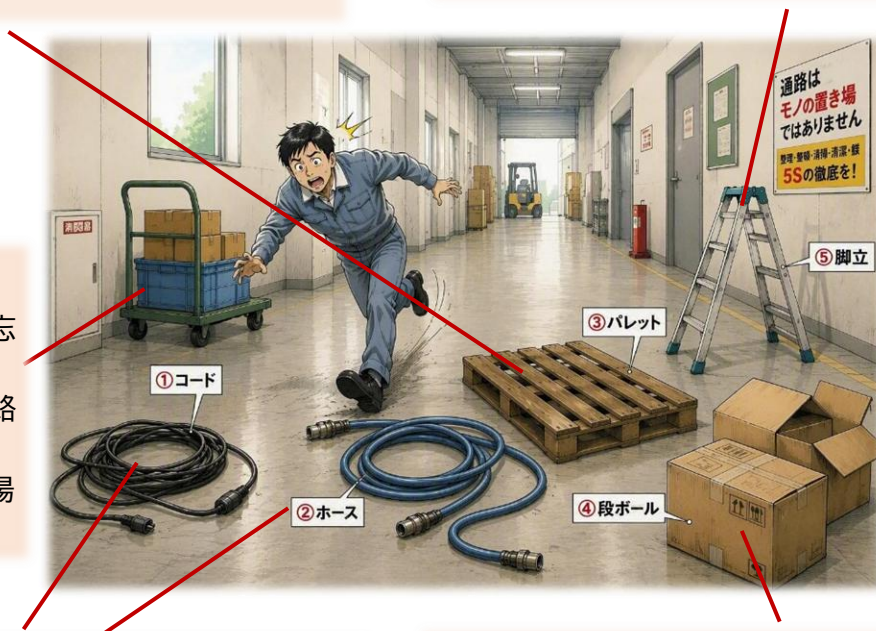
大きくて目立つのに、通路に残されがちな障害物。幅を取るため、つまずきや無理な迂回を招きます。使用後は、速やかに決められた置場へ戻しましょう。

脚立

使った後に、通路へ残されやすい脚立。張り出した脚に足を引っ掛け、脚立ごと倒れる危険も。使用後は放置せず、決められた場所へ収納しましょう。

台車

便利な反面、使用後に置き忘れられがちな台車。通路をふさぎ、歩行者の進路を妨げます。使用後は、すぐに所定の置場へ戻しましょう。



※このほか、カバンやワゴン、歩行器、清掃用具など、職場によってさまざまな「ちょい置き」が発生しがちです。

コード、ホース

いつの間にか通路へ飛び出す、足元の伏兵。足に引っ掛けたり、踏んで滑ったりして転倒の原因に。使用後は元の場所へ戻し、使用中は固定・カバーを！

段ボール

置いた人には見えても、ほかの人には思わぬ障害物。「簡単にまたげる」と油断すると、転倒の原因に。床や通路には置かず、使用後はすぐに片付けましょう。

『ちょい置き』をしない・させない心構え



その1 床や通路への「ちょい置き」習慣から脱却しましょう！

▶ 床や通路に物を置かなくても済むよう、置場、レイアウト、作業方法を見直しましょう。

その2 使ったモノは使った人が、元の場所へ戻す！

▶ 「あとで戻す」は置いた人にしか分かりません。
使い終わったら、その場を離れる前に元の場所へ戻しましょう。

その3 見つけた「ちょい置き」は後回しにしない！

▶ 「あとで」「誰かが」ではなく、安全を確認して片付けるか、使用者・管理者へ声を掛けましょう。

